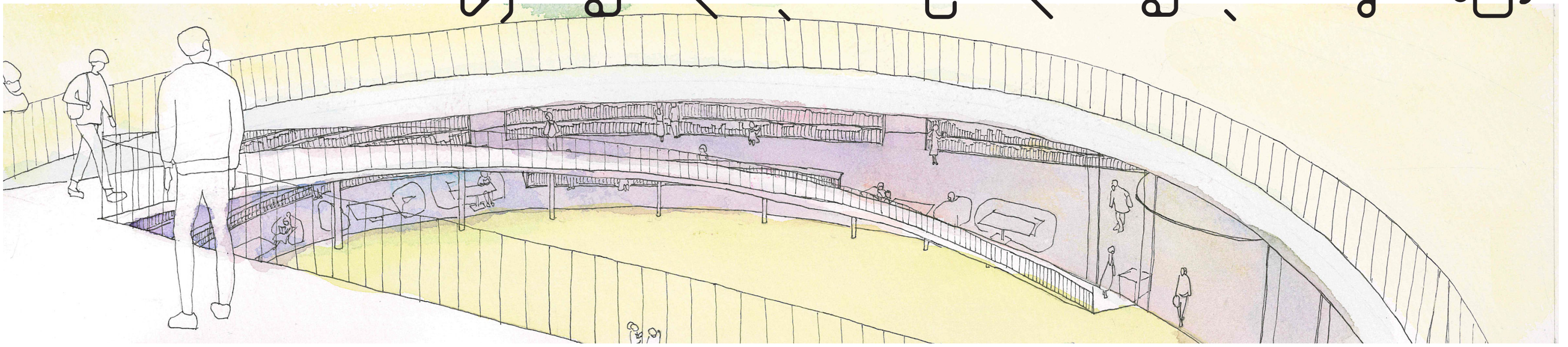


あ る く 、 ち づ くる 、 よ め

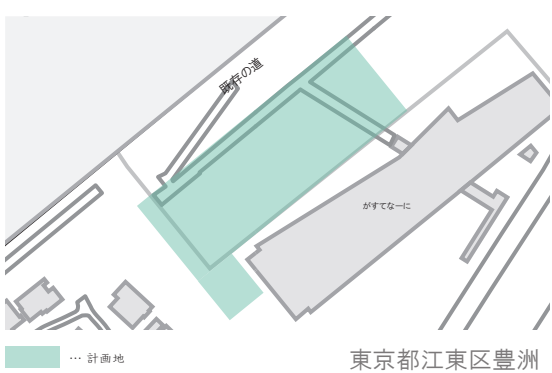


GL とは成長の舞台である

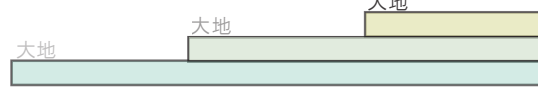
敷地

▽ 大地・知恵・日々の GL は積み重なる

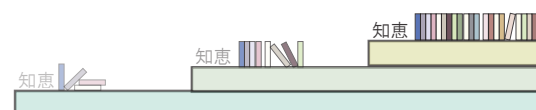
概念



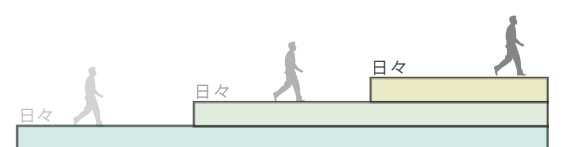
かつての“大地”が積み重なり
今の“大地”がある



かつての人の“知恵”が積み重なり
今の人の“知恵”となる



かつての“日々”が積み重なり
今の“日々”がある



▽地球の成長が記憶されている地下空間に潜る図書館

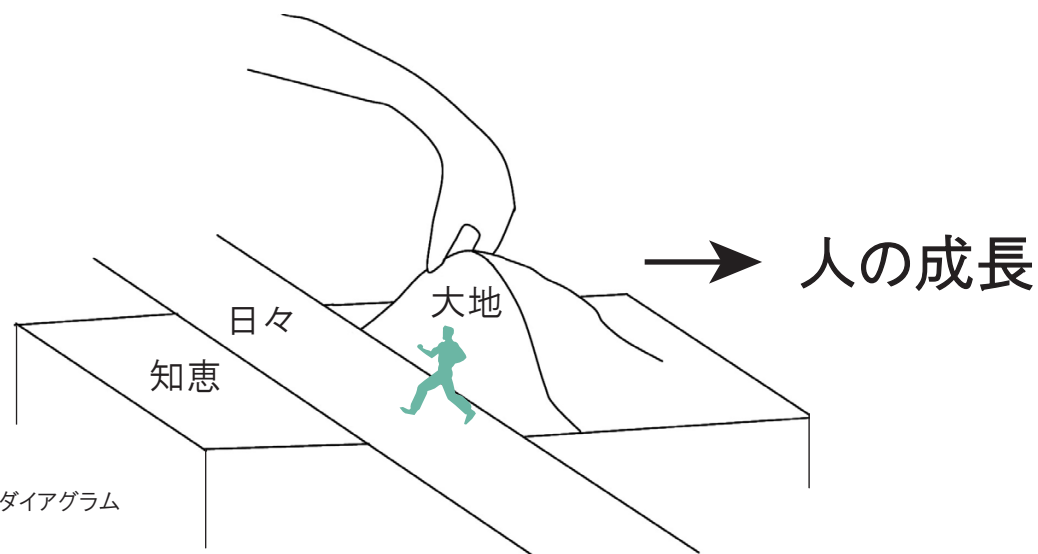
提案

人の成長を促す図書館を提案する

図書館とは知恵の蓄積そのものである
その蓄積を日々吸収することで私たちは成長することができる。
さらに、成長を感じられるものに囲まれている環境こそが
私たちの成長す と考えた。

→ 3つの積み重ねを融合する

3つの積み重ねが人を成長させる



3つの積み重ねを建築的要素に変換する

大地の積み重ね → 地下空間

知恵の積み重ね → 図書館

日々の積み重ね → 自然な動線

建築的操作

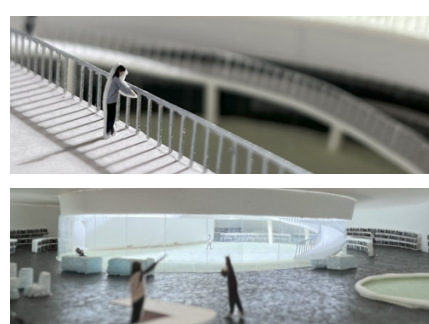
入口部分

生活の一部になるように、気づいたら入っている
図書館を目指すため、隣接の道をスロープとして
道行く人を入口へ誘い込む。



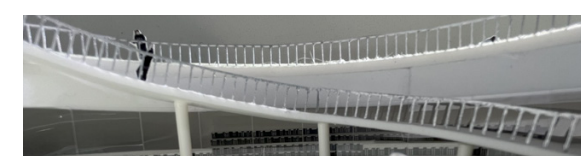
円形テラス

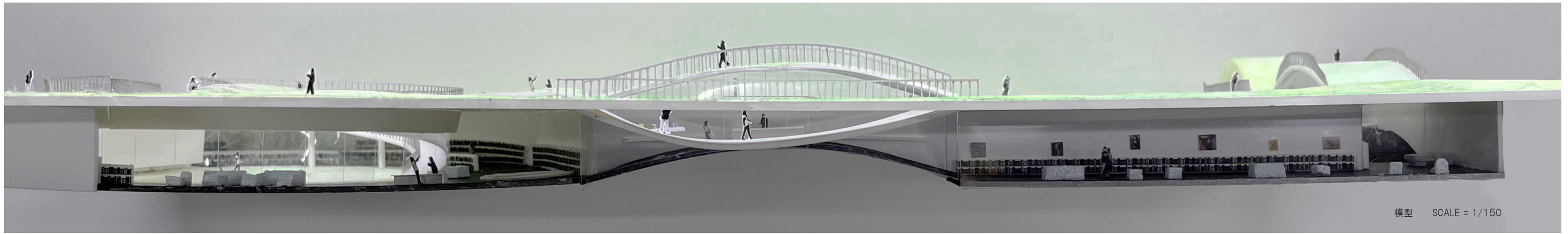
地表を通る人に図書館を認識させ、
招き入れる。図書館を利用する人は、
地下にながら開放的に過ごせる。



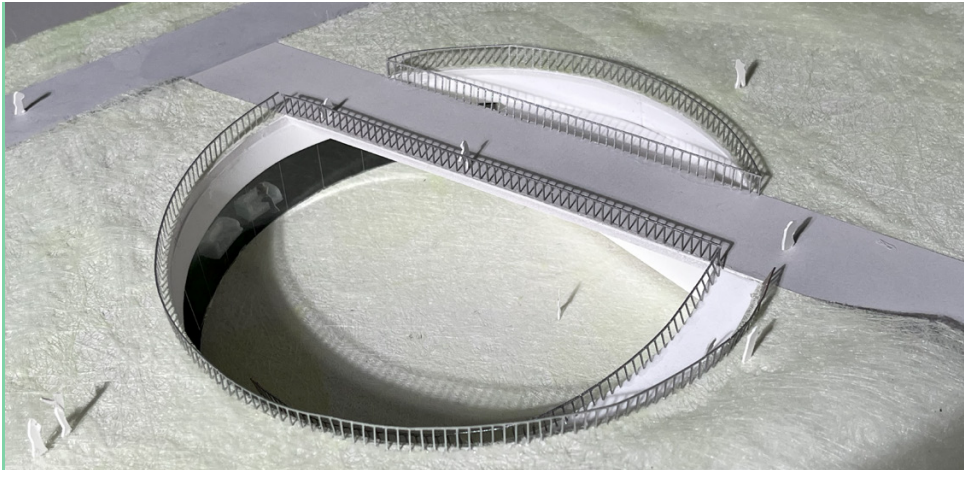
スロープ

図書館には知恵が詰まっている。そこで得た知識が分野を超えて混ざり合い、
新たな知が生まれる。その混ざり合う様子を、空間を繋ぐ効果があるスロープで表現した。

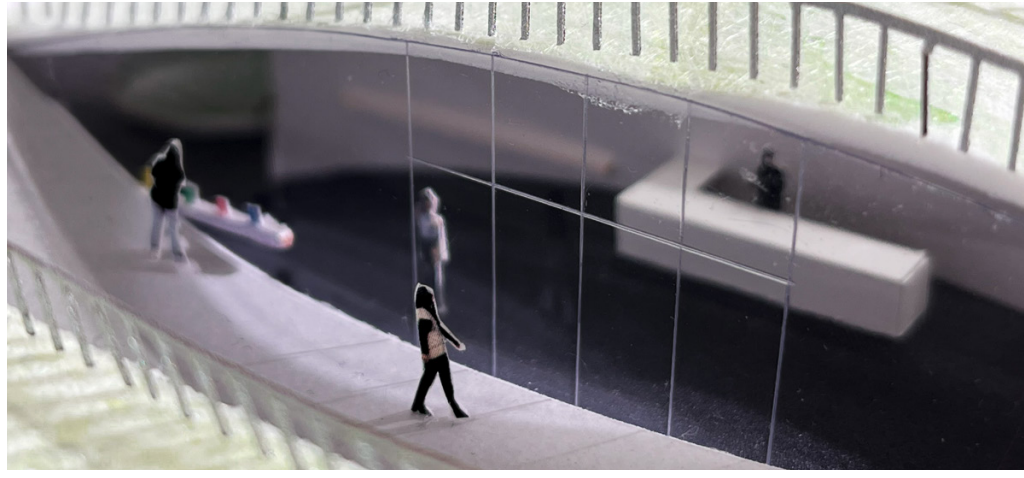




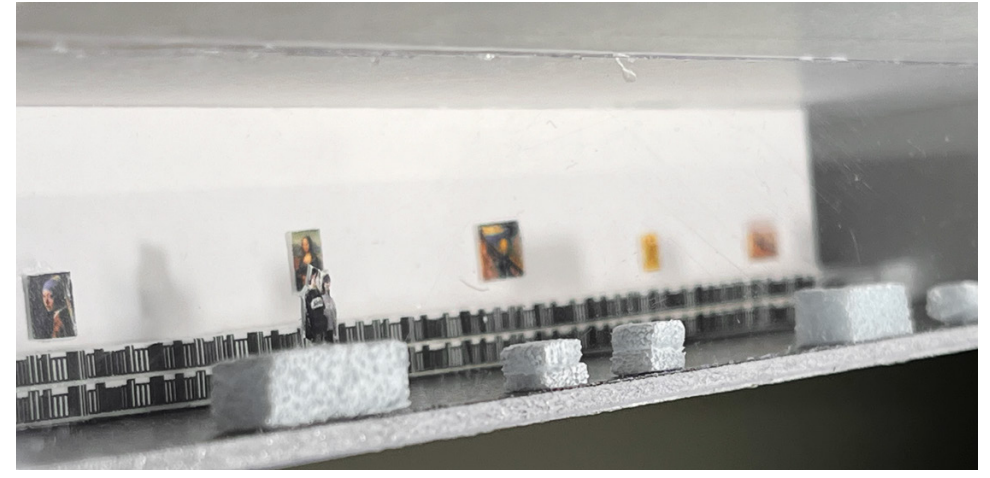
模型 SCALE = 1/150



地下テラス



入口



ギャラリー

▽ 設計

▽豊洲における問題点と建築による効果

- 特徴：利便性の追求による水平と垂直の多用
問題点：暮らしや思考が単調になる

↓ 水平と垂直を結ぶ曲線の導入

風景、動線に変化が生まれる

↓

想像力をかきたてる
- 特徴：既存の図書館がビルの高層階にある
問題点：立ち寄りづらかつ、認識しにくい

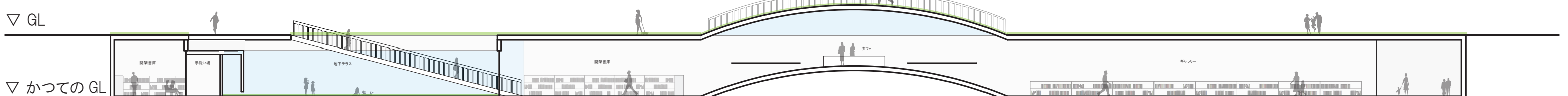
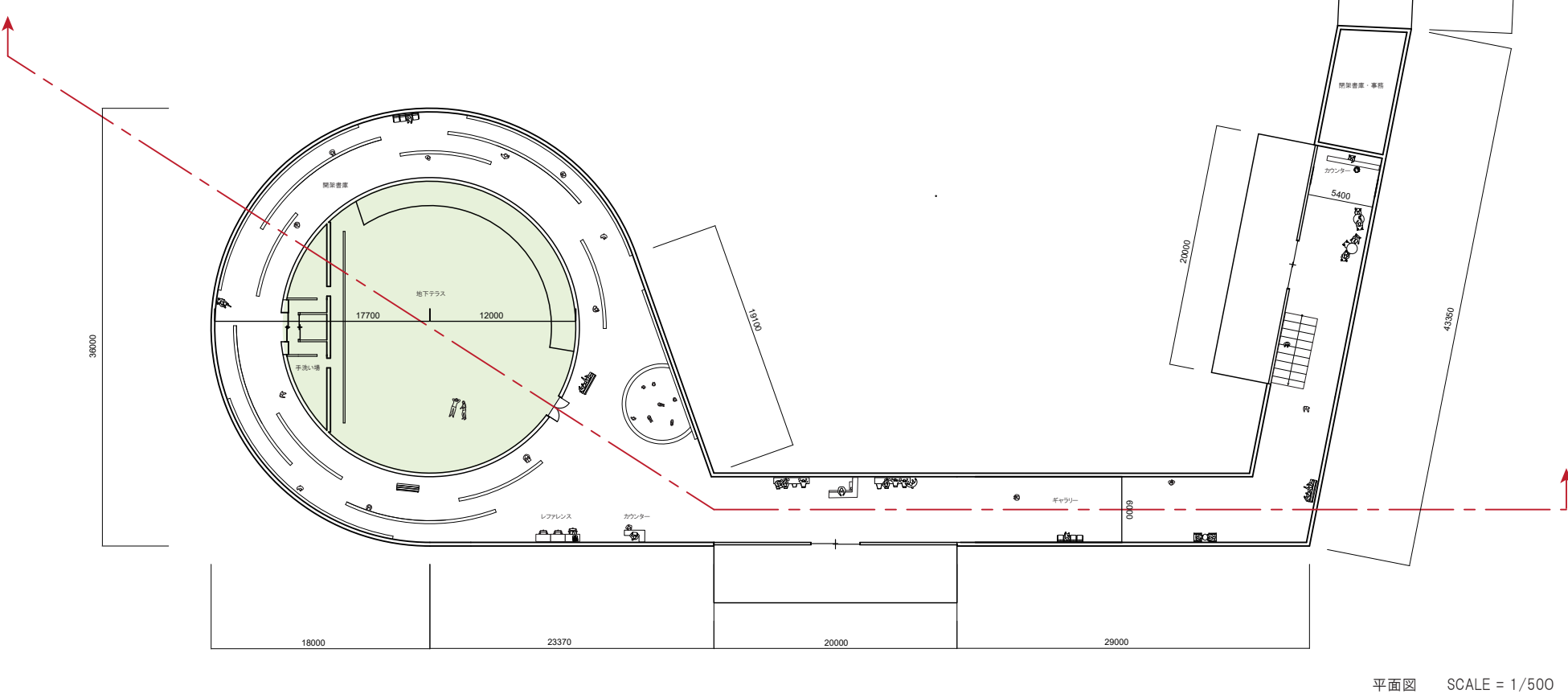
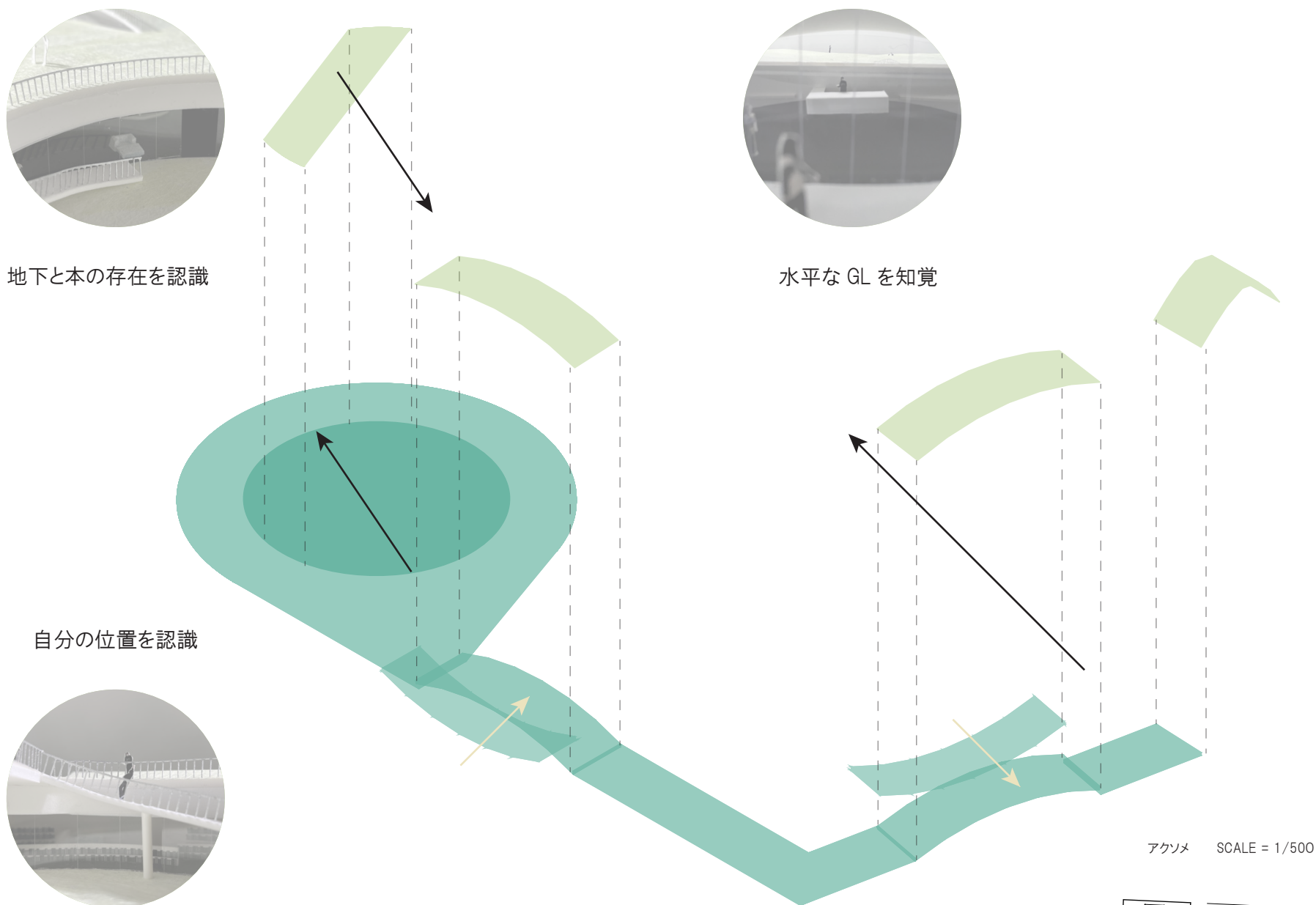
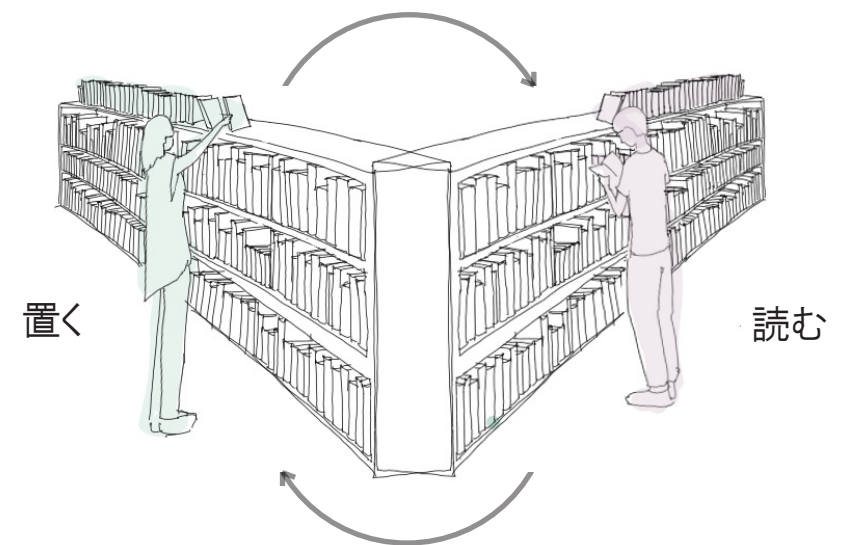
↓ 道に沿わせる

**立ち寄りやすい
認識しやすい
気づいたら入っている**

▽成長する図書館

システム

蔵書の上にこの図書館で共有する古本をドロップできるスペースがある。ここでいう古本は利用者が自主的に持ってきた本である。古本には作家だけでなく、持ち主の知恵も含まれている。そのような本をドロップしていくことで地層のように積み重なり、一つの本棚として、新しい図書館として成長する。そして人もそれらの本を読むことで成長する。



断面図 SCALE = 1/250